

# 令和6年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立東中野山小学校

## 1 児童の実態

- 本を読むことが好きな児童が多く、図書館利用の時間だけでなく、休み時間も多くの児童が図書室に通っている。
- 読み聞かせを聞くことが好きな児童が多い。
- 担任と司書が連携し、図書資料を用いた学習を行い、熱心に調べ学習をしている。
- ▽学年やクラスによって、積極的に図書室に通ったりうち読書に取り組んだりする児童に偏りがある。
- ▽全体的に読書量は少ない。
- ▽図書室で調べ学習をする時間が少ない。

## 2 取組の内容

学校や児童の実態を踏まえ、「読書センター」としての図書館利用を進めながら、「学習センター」「情報センター」としての機能もより一層高めるための実践を行った。

### 【昔語りの会】

#### (1) 「読書センター」として

##### ① 司書による読み聞かせ

学年に応じて、図書の時間に15分程度の読み聞かせを行った。

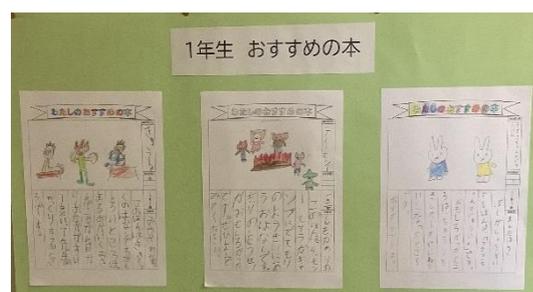
##### ② 「はかせ号」(本のシリーズを全部読む)、「本はともだち」(学年ごとのお勧め本を全部読む)、〇冊達成(貸出冊数が100冊、200冊...と増えていく)、それぞれにミニ賞状

##### ③ 読書週間の取組 6月と11月に実施

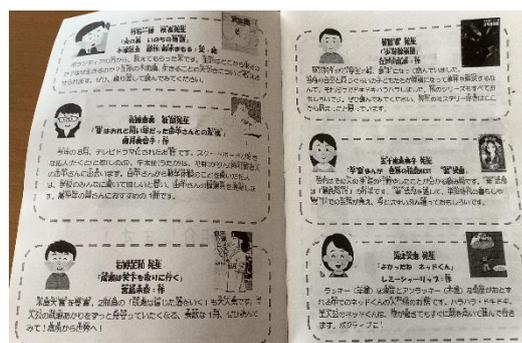
- ・毎日朝読書
- ・語りボランティア「りんごの会」の方による「語りの会」:授業時間の15分間を使って、二話語っていただいた。
- ・児童による「わたしのおすすめの本」の紹介:廊下に掲示
- ・先生方による「おすすめの本」の紹介:全職員のお勧め本を一冊の冊子にまとめ、図書館に置き、自由にもっていくことができるようにした。
- ・コラボ給食:栄養教諭と連携し、物語に出てくる料理を給食に出す。図書委員会が昼の放送で紹介する。
- ・家庭読書「うちどく」の奨励(11月に実施):中学校区の「レベルアップ週間」と同時期に行った。

##### ④ 図書委員会の取組

- ・くじ引き、図書ダービー、しおりコンテスト、図書クイズラリー、本の福袋



### 【先生方おすすめの本】



(2) 「学習センター」として

① 図書館年間活用計画の作成

「学年別単元・題材一覧表」をもとに、学年ごとに図書を活用できそうな単元・題材を選び、年間活用計画を作成した。

② 年間活用計画に沿った実践

実践の内容については後述

③ 図書館オリエンテーション

図書資料を活用する力を身に付けさせるため、学年ごとにオリエンテーションを行った。

1、2年生 図書館のマナーについて(本の借り方、返し方、本の扱い方等)

3年生 本の十進法、ラベルの見方、目次と索引について

4年生 本の十進法、ラベルの見方、百科事典の使い方

5、6年生 本の題名カードを見て、本を探す実践

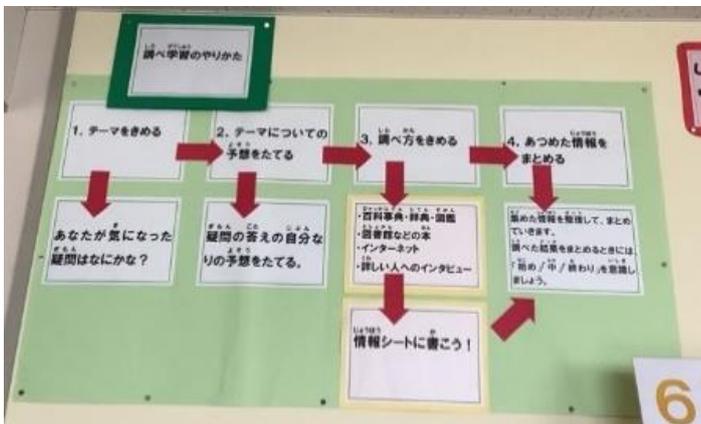
【中学生が小学生の時に好きだった本の展示】



(3) 「情報センター」として

中学校区で連携し、3校合同の取組について話し合い、次の三つを行った。

- ・小・中9年間に渡る「情報活用能力指導体系表」の作成
- ・調べ方にかかわる掲示物の作成と掲示
- ・情報シートの作成(ロイロノート)



情報シート

記入日 年 月 日  
姓 名

テーマ \_\_\_\_\_

調べること \_\_\_\_\_

わかったこと \_\_\_\_\_

※そのまま書き写すときには「」でかこみます

出典(参考にした本)

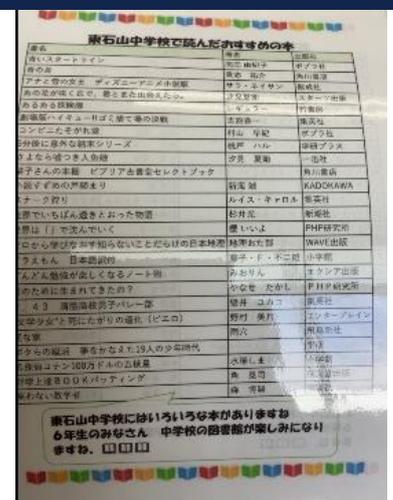
著者の名前	著者	書名	頁数
著者の氏名	著者の職業	著者の経歴	著者の功績
著者の経歴	著者の功績	著者の功績	著者の功績
著者の功績	著者の功績	著者の功績	著者の功績

読んであるページ \_\_\_\_\_

(4) 中学校区としての取組

上記の「情報センター」の取組のほかに、次のことも行った。

- ・中学校の図書委員が作成したしおりのプレゼント  
 昨年度に引き続き、しおりをいただいた。小学生には描けない図柄で、人気がある。しおりのお礼として、図書委員がお礼状を書く活動を行った。
- ・中学生が小学生のときに好きだった本の紹介  
 ブックリストをいただき、図書室に掲示した。興味深そうに見ている子が多かった。
- ・小学校六年生のための、中学校の図書館の紹介



小学6年生へ東石山中学校の図書館を紹介します！

◆中学校の図書館のおすすめポイント

◆本について

- 歴史、伝記、哲学、料理、絵本、小説など、いろいろな分類の楽しい本がたくさんある（1・2・3年生）
- 小学校と比べると本のジャンルが多い（1・2・3年生）
- マンガや映画が原作の本やライトノベルなど、人気小説がたくさんある（1・2年生）
- 自分に合った本を見つけられる（1・2年生）
- おすすめの本がたくさんある（2年生）
- テスト対策の本もたくさんある（2年生）
- 小学校の本より文章量が多く、たくさん読める（1年生）

◆中学校の図書館のおすすめポイント

◆図書館について

- 1日5冊も借りられる（1年生）
- 楽しいイベントがある（1・2年生）
- 好きな本をリクエストできる（1年生）
- 読みたい本を取りよせることができる（2年生）
- 館内が広く席が多いのでたくさんの友達とこれる（2年生）
- 小学校より本の数が多い（2年生）
- 新聞や雑誌が置いてある（2年生）
- 夏は涼しく、冬は暖かく、とても過ごしやすい（3年生）

◆おすすめの本

- 『5分後に意外な結末』シリーズ（1年生）
- 『プロジェクトX』（1年生）

◆6年生へメッセージ

- 本を読むことは知識をつけることです。本を読んで楽しみながら知識をつけましょう。図書館で待っています。（2年生）
- 思わず手に取りたくなるような本がたくさんあります。冊数もジャンルも多いのであきることがありません。ぜひ読みにきてください。（3年生）

中学校に入学したら、ぜひ図書館でいろいろな本を読んでみてください！

東石山中学校図書委員会より

東石山中学校の図書委員が、6年生向けに、中学校図書館のおすすめポイントやおすすめ本をロイロノートで作成してくれました。

### 3 図書を活用した実践

各学年で年間活用計画に沿って実践をし、その記録を次年度の参考資料とする。

学年・教科	1年・国語
単元名・教材名	ふねのせつめいをよもう「いろいろなふね」
活用した資料	○乗り物について書かれた本（3冊） 「はたらくじどう車～しごととつくり～」(小峰書店) など 「はたらくじどう車くらべ」 「のりものくらべ」
活動の様子・資料の使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教科書教材『いろいろなふね』の学習後、『乗り物カードをつくろう』でのりものカードの作り方を学習した。</li> <li>• 自分が作りたい乗り物を決め。「はたらくじどう車について書かれた本」をもとに、カード作りを行った。</li> <li>• のりものカードを完成させ、学級で紹介し合った。</li> </ul>
子どもたちの様子 司書との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元の学習で、「のりものカードを作ろう」というゴールを示し、『いろいろなふね』を学習することを伝えた。そのため、「いろいろな船はどんなしごとをしているか」、「どのようなつくりになっているか」という目的を明確にして学習を進めることができた。</li> <li>• 司書教諭から、「のりものカードつくり」に適した本を選定してもらった。</li> </ul>

学年・教科	4年・国語
単元名・教材名	「工芸品のみりよくを伝えよう」
活用した資料	○伝統工芸について書かれた本（30冊） 「伝統工芸のよさを伝えよう」（汐文社） 「伝統工芸って何？」（美術書出版株式会社）など
活動の様子・資料の使い方	・教科書教材『未来につなぐ工芸品』の学習後、自分が伝えたい伝統工芸を決め、「伝統工芸について書かれた本」をもとにリーフレットづくりを行った。 ・リーフレットを完成させ、学級で紹介し合った。
子どもたちの様子 司書との連携	・単元の学習で、「リーフレットを作って伝統工芸を伝える」というゴールを示し、『未来につなぐ工芸品』を学習することを伝えた。そのため、「どのように書けば伝統工芸について分かりやすく伝えられるか」「興味をもった工芸品についての本を読み、その内容を友達に知らせる」という目的を明確にして学習を進めることができた。

#### 4 取組を振り返って

##### (1) 成果

- 昨年度よりも貸出冊数が増えるように、図書委員会の児童とともに工夫しながら取り組んできた。その結果、1月現在で、昨年よりも冊数が増えた。読書センターとしては、毎年行っている活動をさらに充実させることができた。
- 学校図書館活用推進校ということで、担当者が意識して先生方に声を掛けることで、担任の先生方の意識が上がった。その結果、貸出冊数の増加につながったと考えられる。声掛けが大切である。
- 情報センターとして、中学校区で情報活用能力指導体系表や情報カードを整えることができた。今後、これらを活用していけるように、職員に働き掛けていきたい。特に、情報カードは紙とロイロノートで作っており、調べ学習の際にはすぐに利用できるのも、大いに活用していく。
- ▽全体的に貸出冊数に偏りがある。本を借りない子への働き掛けをさらに工夫していく。
- ▽情報カードを活用できるように、団体貸し出しのときに、本と一緒に渡すとよかった。「情報センター」としての取組が今後の課題である。
- ▽図書委員会の活動と他の委員会の活動等が重なり、読書週間中の集客が減った。時期をずらすなど工夫の余地がある。

令和6年度 情報活用能力（情報活用の実践力）指導体系表 東石山中学校区

	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年	
つかむ	課題設定	①-1 調べたいことを選んで決める。 ・ポーンチャート、くま手チャート（アイデアを広げる）	①-2 身の回りの課題から、調べる内容を見付ける。	①-3 身の回りの課題から、解決すべき内容を選ぶ。 ②様々な情報から発想を広げていく。	①-4 学校などの自分を取り巻く社会の中での課題を見付ける。	①-5 地域などの自分や仲間を取り巻く社会の中での課題を見付ける。	①-6 国や世界などの広い範囲での課題を見付ける。
	学習計画		①-1 効果的な調べ方について見通しをもつ。	①-2 仮説を立てて学習の見通しを立てる（適切な方法を自分で選び、計画を立てる）。 ・フローチャート（順序）	①-3 仲間と相談しながら適切な学習計画を立てる。	①-4 自分と他者の学習計画を比較・検討しながら学習計画を立てる。	①-5 自分と他者の学習計画を比較・検討しながら学習計画を立てる。
調べる	図書資料以外の方法	① 観察記録 ②-1 人に聞く。（インタビュー） ・分からないことは聞く。 ・分からないときはもう一度聞く。	②-2 人に聞く。（インタビュー） ・質問は1つか2つに決める。 ・事前に関きたいことを絞る。 ・インタビューのマナーを理解する。 ②-3 人に聞く。（アンケート） ・質問と答えの準備を立てる。 ③地図、写真、実物、パンフレット、リーフレットなどの具体的資料で調べる。 ④インターネットの使い方（検索方法）を理解する。	⑤新聞で今の情報を得る。 ⑥複数のメディア（媒体）・複数の情報源に当たる。 ・地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料で調べる。	⑦様々な立場の人へのインタビューをする。 ・異なる立場の方の意見や考え方を比較・検討する。	⑧インターネットを利用する。 ・効果的な検索方法や課題に対して適切な利用サイトなどを理解する。	⑨インターネットやメディアを利用する。 ・アーカイブ等を利用しながら情報を精査する。 ・複数サイトで情報を比較する。
	図書資料の利用	①図鑑の使い方を理解する（目次・索引の使い方を理解する）。 ②百科事典の使い方を理解する（百科事典を引く）。	③国語辞典、漢字辞典の使い方を理解する。 ④分類を知り、活用する。 ⑤情報源（著者名・発行者名）をもとにもう一度探す。	⑥必要な情報を複数の図書資料からあたる。	⑦複数の分類から必要な情報を集め、比較・検討する。	⑧辞書と相談したりしながら必要な情報を追加する。	⑨雑誌や新聞で最新の情報と比較しながら情報を収集する。
	情報の記録	①-1 基本的な記録の仕方を習得する。 ・「問い」（知りたいこと）とその「答え」、「署名」「聞いた人の名前」を情報カード等を書く。 ・必要な事柄だけを書く。短い言葉で書く。 ②-1 写真で記録する。 ④-1 記録したものを蓄積する（ポートフォリオ）。	・奥付を見て「著者名と発行者名」を情報カード等を書く。（ウラを取る） ①-3調べたことと自分の考えを区別する。 ・引用の意味を理解し、仕方を習得する。 ・要約の意味を理解し、仕方を習得する。 ・著作権を理解する。 ②-2 効果的な写真や動画で記録する。 ③-1 付箋を使ったり、マーカー等で線を引いたりする。 ④-1 ポートフォリオ（主に紙媒体）を活用して記録を蓄積、整理する。	①-4 複数の情報を整理・分析しやすいように記録する。 ・データチャート（理由付け、分類・分析・整理） ②-3 目的に応じた写真や動画で記録する。 ④-2 デジタルポートフォリオ（個人フォルダ・個人クラウド・ロイロノート等）を活用して記録を蓄積、整理する。	①-5 情報源を整理して記録する。 ②-4 デジタルデータを活用しやすいようにフォルダで分類するなどして保存する。	①-6 集めた情報の重要度を考えて整理する。 ③-2 情報を可視化できるようにフォルダやカード等でまとめて管理する。	①-7 情報の発信者や発信時期などを踏まえて整理する。

まとめる	情報の整理・分析	①-1 集めた情報を比べて、相違点を見付けたり、分類・弁別したりする。 ・X、Yチャート（分類、弁別） ②-1 見付けた共通点や相違点から、感想や考えを導き出す。	①-2 集めた情報から、特徴や新たな気づきを見付ける。 ・ベン図（比較・分類）、ポーンチャート（多面的に見る）、くらげチャート（理由付け・関係付け・要約） ②-2 見付けた特徴や新たな気づきをもとに、自分の考えを導き出す。	①-3 集めた情報から、類推し、新たな疑問や課題を見付けるとともに、解決策を探る。 ・イメージマップ（広げる、関係・関連）※ロイロノート等を使う。 ②-3 仮説を立てて整理・分析をする。 ③資料の特性に留意して情報を読み取る。	①-4 集めた上から課題を振り返り、別の支店や問題点を探る。	①-5 集めた情報を効果的に可視化できるように、仲間と相談しながら目的に応じて複数の表やチャートを使い分ける。	①-6 集めた情報を俯瞰し、自分で適切な表やチャートを利用する。
	情報のまとめ方	報告文、絵日記、手紙、絵カード、紙芝居、クイズ、紹介文、劇	報告書（レポート）、リーフレット、新聞、小冊子、意見文、ポスター、案内文、説明文	論文、解説文、提案文、推薦文、随筆、プレゼンテーション資料	表やチャート、ポスター	プレゼンテーション	発表対象者や発表形態などから、アナログ・デジタルなど最適な方法を使い分ける。
	情報の加工・表現	①調べたことに感想を入れてまとめる。 ②順序を表す言葉を使う。	③事実と意見を区別してまとめる。 ④引用する部分にかぎ（「」）をくくると、引用部分を適切な量にすること、必要に応じて文章や絵、写真、図表、グラフなどを引用する。 ⑤調べた目的や方法、調べた結果と自分の考えを明確に書く。	⑥目的に合わせた方法で、事実と考えや感想を区別してまとめる。 ⑦必要な情報を整理して、白地図や年表、図表などに効果的にまとめる。	⑧必要に応じて追加情報をインターネット等を利用して集める。	⑨情報をデジタル化し、プレゼンテーションに使用できるようにする。	⑩プレゼンテーションと寸劇など、発表を意識して情報のまとめ方を工夫する。
伝える	推敲	①大事なところが落ちているか、主述関係が正しいかどうか確かめる。	②相手や目的に応じた内容になっているか、自分の考えが明確に表されているかを確かめる。	③自分の考えなどを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧なところはないかを確かめる。	④課題設定から解決までの流れが明確であるか確かめる。	⑤伝えたい相手に対して適した内容であるかを踏まえ、自分の考えが論理的であるか確かめる。	⑥様々な考えから自分の意見を導き出したプロセスや自分の意見を補強するデータや資料を揃っているか確かめる。
	発信	①情報手段を使って、自分の思いを伝える。 ・実物、写真やまとめたものを見せながら伝える。	②情報手段を使って、分かりやすく伝える。 ・資料の出し方を工夫しながら伝える。	③情報手段を使って、意見交流を図り、考えを広げたりまとめる。 ・資料をもとに根拠や理由を明確にしなが伝える。	④情報手段を使って相手の反応を見ながら言葉を使い分けたり、情報を追加したりする。		
	受信	①聞き方マナーを習得する。 ②大事なことを落とさずに聞く。 ③分からないときはもう一度聞く。	④自分の考えと比べながら聞く。	⑤意図を組みながら聞く。 ・相手の考えを理解するために、大事な言葉（結論・理由）をメモしながら聞く。 ・結論や理由の根拠は何か意識し、確認しながら聞く。 ・よりよい考えを導き出すことを意識して様々な考えを聞く。	⑥自身の考えと共通点や相違点を着目して聞く。またそこでの新たな疑問点などを整理しながら聞く。		
振り返る	交流	①話題に沿って話し合う。 ②感想を伝え合う。	③共通点や相違点を考えながら話し合う。	④立場や糸をはっきりさせて計画的に話し合う。 ・ポスターセッション、討論会等	⑤他者の考えを尊重しつつ、異なる意見に至ったプロセスや、同じ結論でもプロセスの違いなどに着目して意見交流を行う。意見を整理しつつ全体での結論を出そうとする。		
	学習評価の評価	①-1 調べ方やまとめ方、発表の仕方を振り返る。 ・よかったところや改善点を見付け合う。	①-2 「つかむ」「調べる」「まとめる」「伝える」の学習の過程と結果について評価する。 ・自己評価や相互評価から、成果と改善点	①-3 「つかむ」「調べる」「まとめる」「伝える」の学習の過程と結果を評価する。 ・自己評価、相互評価をもとに、根拠を示しながら成果と課題を見付ける。	①-4 「つかむ」「調べる」「まとめる」「伝える」の学習の過程と結果について評価する。 ・自己評価、相互評価、意見交流をもとに成果と課題を整理する。 ・自身の考えが深まったり、変化したりしたきっかけに注目して振り返りを行		